

お薬を温湯に溶かして投与する方法(簡易懸濁法)について

お薬を粉碎しなければ服用困難な方へ投薬する方法として、当院では『内服薬 経管投与ハンドブック第3版』(じほう)等を参考に簡易懸濁法で対応しております。

簡易懸濁法とは？

錠剤をつぶしたり、カプセルを開封したりせず、そのまま温湯(約 55℃)に入れて、崩壊・懸濁させる方法です。

この方法で適さない薬もありますので、薬剤師が説明した薬のみで使用して下さい。



①薬剤をそのままカップに入れます。

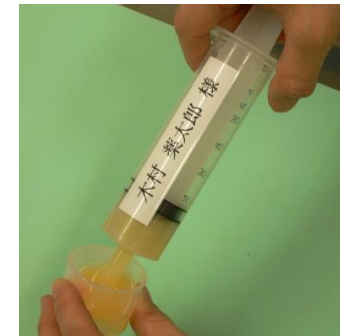


②カップに調乳ポットの温湯(約 55℃)を入れます。



③シリンジの先端で攪拌し、約10分間放置します。

約10分



④懸濁液を攪拌しシリンジで吸い取ります。

⑤経管栄養終了後、経管栄養剤の入れ物に少量の人肌程度のお湯を入れフラッシュします。



⑥経管チューブにシリンジをつなぎ、薬剤を投与します。

⑦シリンジに別の水を吸引し、チューブに注入し、必ず残った薬剤を洗い流します。

⑧使用器具を0.01%次亜塩素酸 Na (ミルトン等)に1時間浸漬後、乾燥させて再利用します。



ご家庭での55℃温湯の作り方は？

ポットのお湯:水=2:1になるように水を加えます。

厳密に55℃である必要はありませんが、温度が高すぎるとお薬の安定性に問題が生じる薬剤もありますので、高くなりすぎないようにご注意ください。

社会医療法人社団 一成会 木村病院 薬剤科

お薬を温湯に溶かして投与する方法(簡易懸濁法)について(服用する場合)

お薬を粉砕しなければ服用困難な方へ投薬する方法として、当院では『内服薬 経管投与ハンドブック第3版』(じほう)等を参考に簡易懸濁法で対応しております。

簡易懸濁法とは？

錠剤をつぶしたり、カプセルを開封したりせず、そのまま温湯(約 55℃)に入れて、崩壊・懸濁させる方法です。

この方法で適さない薬もありますので、薬剤師が説明した薬のみで服用して下さい。



① お薬をそのままカップに入れます。



② カップに調乳ポットの温湯(約 55℃)を入れます。



③ スプーン等で攪拌し、約10分間放置します。



④ 懸濁液をスプーンですくって又はそのまま服用する。(とろみをつける又はつけない等患者さんごとに異なります)

⑤ 服用後、入れ物(カップ)にお薬が残っている場合、少量の温湯や水を入れてお薬を全て服用する。

⑥ 入れ物(カップ)はご自宅では食器などと同様に、すすいで洗って下さい。

(使用器具を 0.01%次亜塩素酸Na(ミルトン等)に1時間浸漬後、乾燥させて次回使用することを衛生面管理上お勧めします。)

ご家庭での 55℃温湯の作り方は？

ポットのお湯:水 = 2 : 1 になるように水を加えます。

厳密に55℃である必要はありませんが、温度が高すぎるとお薬の安定性に問題が生じる薬剤もありますので、高くなりすぎないようにご注意ください。

社会医療法人社団 一成会 木村病院 薬剤科